

第25号

郡山地区社会福祉協議会
会長 庄子誠喜

福祉のひろば

令和二年の福祉活動

地区社協会長 庄子 誠喜

郡山地区における福祉活動は、地区社会福祉協議会発足から六十年近くになります。それ以前から、主に町内会の中ですでに子育てや高齢者の支援が実施されていたとお聞きしています。

令和二年は新型コロナウイルスの出現で社会生活は大きく制限されました。

福祉活動は様々な形があると思いますが、通常は、人々が集う機会や場所を設けることが基本です。人が集まれない今日の状況は社協活動として動けない一年でした。長い歴史の中ではじめての事だと思っています。

それでも、感染対策に十分配慮しながら、福祉委員の研修と、一人暮らし高齢者の一斉訪問による安否確認活動を行いました。

サロンは、一部を除き開催を見送りました。

今後、感染防止対策を徹底して、行動できる状態をつくり、少しでも前に進む取り組みをしていきたいと考えていますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

活動を振り返って

福祉委員 小畑千代美

福祉委員になってから十年が経ちました。活動は一人暮らしの方へのサポートと、見守り活動、各地で開かれる「あいあいサロン」、年二回の「ふれあい昼食会」、定着しつつあった「オープンカフェ」で交流を続けてきました。

ところが、新型コロナウイルス感染防止のため、多くの活動ができなくなり、不安のなかで自粛生活が始まりました。

人と人の距離が離れ交流がままならない中、活動を待ちわびる声もあると聞き、今までの活動が如何にかけがえない事だったと改めて感じました。

再び活動ができるまで希望をもちながら、心の距離は離さず今できることを考えていきたいと思っています。

福祉委員 佐々木牧子

今年は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、一人暮らし高齢者の「ふれあい昼食会」の開催がなかったため、何かをしたい気持ちから理事会で協議しました。そこで該当する高齢者を福祉委員が訪問して「焼き菓子」を届けながら、安否確認をすることになりました。

私は、十二月十日から北目地区九名のお宅を訪問しました。近況を聞くと、「コロナ禍で買い物などを控えて不安を感じている」方、「体調が悪くなりこの先心細い」と言われた方もありました。

それでも、お菓子を手渡すと、皆さん様にビックリされ、「思いがけないことでありがたい」と、大変喜んでくれました。私も、一足早いクリスマスプレゼントを差し上げた気分になり、嬉しくなりました。いつも昼食会に参加されない方も、このような形で心配りが出来るなら、今後も続けたいと思いました。

福祉委員 高谷 新子

新型コロナウイルス感染症の流行が始まってから、一年が経過しました。令和二年度の活動は、感染のリスクが高く「三密の」状況になりやすい「サロン活動」「ふれあい昼食会」等は開催出来ませんでした。

見守りの方法は、該当者宅への訪問や、出会った時に声がけしたり、家の外から様子を確認したり、電話で近況を聞いたりするなど、相手の状態にあわせて確認してきました。

十二月上旬、一人暮らし高齢者の皆様を一齐に訪問することになりました。

近況をお尋ねし、変わりない状態を確認し、粗品を渡して大変感謝されました。皆さんが元気に暮らしている姿をみて安心しました。

来年度も見通せない状況ですが、感染防止対策に取り組み、一日も早く今までのような取り組みが出来ることを願うのみですが、今の状況だからこそ必要な活動を話し合っており、実行できればよいと思います。



研修

福祉委員の役割と

多様な支援のあり方



令和二年八月二十九日、今年度最初の研修会が開催されました。

東北文化学園大学、医療福祉学部保健福祉学科「野崎瑞樹教授」に講演していただきました。

世の中が高齢化、核家族化して、一人暮らしの高齢者が増え、中には閉じこもり状態になったり、孤独死するケースもあるそうで、これにはとても胸が痛みます。

困り事を抱えた高齢者を地域の人達で見る「見守り」そして、高齢者の生活の異変に気づく「気づき」気づいたら住民同士や住民と専門職とのネットワークにつながることで助けられる事がたくさんある。とのことでした。

この、「見守り」「気づき」「つながり」が大事なキーワードで、私たち福祉委員に期待される役割は、高齢者の心配事に気づき、気づいたら民生委員につなぎ、場合によっては専門機関につないでいくことで役割を果たすことになるかと痛感しました。

同時に出会いやつながりを持つ機会や場所をつくり、提供していくことも大切なことであるとのことでした。

とでした。

今回の講演では、福祉活動をする上で大事な事を学ばせていただきました。

新型コロナウイルス感染が広がる中、高齢者への支援の仕方が今までより難しくなるかもしれないが、今日のお話を心に留め、民生委員や町内会など地区の世話人の方と連携して、より良い福祉活動を行って行きたいと思っています。

(福祉委員 佐々木牧子)

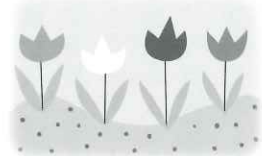


令和3年度 主な事業

5月中旬	総会(書面)
6～3月	サロン(あいあいサロン) (オープンカフェ)
7月	民生委員・福祉委員合同研修
9月	ふれあい昼食会
11月	移動研修
2月	ふれあい昼食会
3月	福祉のひろば発行

※実行に当たっては時々の状況判断で開催できないこともあります。

随時開催：役員会、福祉委員会
随時参加：市社協等会議、研修

あいあい
サロン

在家 町内会

庄子 マリコ
赤井澤イサコ

町内会行事や夏祭り、敬老会など人が集まる機会はことごとくキャンセルとなり、特に、一人暮らしの皆様は毎日が不安な状況でした。少しでも前向きになることを願って、十二月十九日、感染対策に十分配慮しながら、郡山コミセンに集まりました。参加十名、スタッフ五名で、十ヶ月ぶりの再開となりました。

町内会長あいさつでは、特殊詐欺に関する注意事項を聞き、折り紙、ビンゴゲーム、軽い体操などで体をほぐし、控えめのおしゃべりをして、お菓子の詰め合わせをお土産に散会しました。

編集後記

目に見えないものは恐ろしい。「新型コロナウイルス」です。ワクチンへの期待は高まっていますが、まん延を防ぐための行動のあり方も見えて来たいと思います。「移さない、移らない」ことが大原則で、そのための努力を惜しまないことが、私たち一人ひとりの行動にかかっています。

東日本大震災から十年となりました。想像を絶する揺れ、大津波、自然の猛威です。原発事故は、災害？人災？

放射線を避けながらの廃炉作業は、見通しを立てられない程、困難な状況です。

自然に対する人間の関わり方、人間の誇り、を改めて考えるときではないでしょうか。